

「課題名：卵巣がんにおけるLAT1 発現と mTOR pathway の動態解析」について

○ 研究の意義・目的

卵巣がんの中には従来の抗がん剤治療に比較的抵抗性を示すがんも存在しています。本研究では卵巣がんにおいて、特異的に発現している可能性のあるアミノ酸トランスポーター（細胞の栄養素であるアミノ酸を細胞内に取り込むトランスポーター）の発現と機能解析を行うことで新規の治療レジメを提案することを目的としています。

○ 研究対象者

2008年1月から2026年12月までに、広島大学病院産科婦人科で卵巣がんに対して手術を受けられた方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、病理診断科に保存してある切片の一部（パラフィン切片5枚程度）を用いてアミノ酸トランスポーターの発現を解析します。また病理検体診療録（カルテ）情報を転記して臨床病理学的な検討を行います。カルテから転記する内容は年齢、組織型、進行期、治療経過、予後です。

利用開始予定日：本学における実施許可日（2019年4月26日）以降
本学単独研究のため、他機関へ試料・情報の提供を行うことはありません。
（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学病院 准教授 阪埜浩司

○ 研究期間 2019年4月26日（許可日）～2028年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に

不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5262

広島大学病院産科婦人科 准教授 阪埜浩司（研究責任者）

講師 古宇家正（担当者）